



白神山地世界自然遺産登録 25 周年記念事業 「ミス日本みどりの女神」竹川智世さんが一日森林管理局長として活躍

# みどりの東北

MIDORI NO TOHOKU

Vol.  
**176**  
東北森林管理局

## 特集

早池峰山周辺森林生態系保護地域における防鹿柵の設置について [計画課]

## CONTENTS

### ■美しい森林づくり

地域の一員としての森林づくり…… [岩手南部森林管理署遠野支署]

### ■我が署の名所

玄武洞(玄武の大岩屋)及び鳥越の滝…… [盛岡森林管理署]



## 特集

# 早池峰山周辺森林生態系保護地域 における防鹿柵の設置について

## 計画課

林野庁では、国有林野における原生的な天然林や地域固有の生物群集を有する森林及び希少な野生生物の生育・生息に必要な森林を保護・管理することにより、森林生態系からなる自然環境の維持、野生生物の保護、遺伝資源の保護、学術の研究等に資することを目的として、「森林生態系保護地域」・「生物群集保護林」・「希少個体群保護林」の3種類の保護林を設定しています。

東北森林管理局管内の保護林は、世界自然遺産地域でもある白神山（青森県・秋田県）などの「森林生態系保護地域」が8箇所、蔵王（宮城県・山形県・和賀岳（岩手県・秋田県）などの「生物群集保護林」が16箇所、眺望山（青森県・男助山・巖宿ノスギ（岩手県）・斗蔵山（山形県））の3種類の保護林を設定しています。



早池峰山遠景

岩手県中部に位置する早池峰山（標高1,917m）を中心とした面積約8,100haに及ぶ早池峰山周辺森林生態系保護地域（以下「保護地域」という）も、これらの保護林のひとつです。

早池峰山は、ハヤチネウススキソウやナンブトウチソウ、ナンブトラノオなどの固有種をはじめとした希少

な高山植物の宝庫として親しまれています。また、早池峰山は超塩基性の蛇紋岩質地帯、南に対峙する薬師岳は花崗岩などの非蛇紋岩地帯となっており、基岩の相違によって植物相の対照が顕著なため、早池峰山周辺地域は地質学的にも貴重な地域となっています。この地域は、特別天然記念物、国定公園、自然環境保全地域や鳥獣保護区にも指定されています。

早池峰山周辺では、これまでも高山植物の盗掘や移入植物の繁茂などで貴重な植生が危機にさらされ、巡視の強化や移入植物の駆除などを行ってきていますが、近年は二ホンジカの生息密度の増加、生息域の拡大、さらに高山帯の植物への食害が増加していることが確認されています。

そこで東北森林管理局では、早池峰山周辺部における二ホンジカ対策の一環として、保護地域の貴重な高山植物等を二ホンジカによる食害から保護し、また、被害を受けた植生の回復に資するため、試験的に防鹿柵を設置することにしました。



ハヤチネウススキソウ

平成30年7月27日には、早池峰山河原の坊登山道（※）において、岩手県自然保護課、有識者及び現地の国有林野を管轄する岩手南部森林管理署遠野支署との合同調査

により設置箇所を選定し、9月4、5日に、周囲50mの防鹿柵を有識者や自然公園保護管理員などの方々と共同して2箇所設置しました。



河原の坊登山道での杭打ち作業

せて4箇所、延長合計約200mの防鹿柵を設置しました。

今後は、防鹿柵の効果を検証することにも、効率的な維持管理体制の検討などを行ってまいります。

（※）現在、河原の坊登山道は、平成28年に発生した崩落のため、通行禁止となっております。



門馬握沢登山道でのネット張り作業

また、8月30日には、三陸北部森林管理署管内の門馬握沢登山道沿いに周囲70mと周囲30mの防鹿柵を自然公園保護管理員などの方々と共同してそれぞれ1箇所設置しました。

今年度は合わ



# 美しい森林づくり



## 地域とともに130年 地域の一人としての森林づくり

岩手南部森林管理署遠野支署

### はじめに

岩手大林区署（営林局の前身組織）遠野派出所が明治21（1888）年10月4日に当時の西閉伊郡横田村（現遠野市中心部）に開庁して、本年度130周年を迎えました。遠野小林区署、遠野営林署と組織の変遷を経て、今日を迎えることができたのは、ひとえに地域社会の御理解と御支援の賜物です。今後140周年に向けて引き続き地域社会との絆を強めていきたいと考えており、そうした当支署の地域連携の取組の一端を御紹介します。

### 1 早池峰山の保全

早池峰国定公園の遠野市及び花巻市の区域のほぼ全域が当支署の管轄する国有林であるため、岩手県、遠野市、花巻市等の関係機関と連携して巡視や外来植物の駆除等の保全活動を実施し、特に6〜10月の間は登山マナー啓発等のためグリーン・サポート・スタッフ（GSS）4名を配置しています。今年9月にはシカによる高山植物の被害を防止するネットの設置も行いました。



早池峰国定公園 薬師岳

### 2 里山フェスタ2018

遠野市、岩手県、森林組合等と実行委員会を組織して毎年6月に遠野市緑化祭・里山フェスタを開催しています。本年は多数の市民や緑の少年団等の参加を得て、栂川目市有林にカラマツ苗木の植栽を行いました。また、遠野小学校に緑の少年団が結団され、市内11校全ての小学校に緑の少年団が組織されたことになりました。

### 3 遊々の森

東恩徳国有林の採草放牧地跡について、遠野市及びNPO法人遠野エコネットと「琴畑水源遊々の森」の協定を締結して、土淵小学校の児童によるミズナラの植樹活動等を継続的に行っています。

### 4 森林教室等

児童館の依頼を受けて児童向けの森林教室・森林の観察会などを随時開催しています。毎年7月には森と湖に親しむ旬間と田瀬湖水まつりの一環行事として田瀬ダム・森林探検隊を田瀬ダム管理支所等と開催し、田瀬湖周辺の森林の観察等を行っています。また、遠野市産業まつりでは、リースづくりやクツプの紹介を行いました。



遊々の森・植樹活動

### 5 森林環境の保全等

当支署管内の森林においても不心得な者によるごみの不法投棄が



遠野市産業まつり・リースづくり

### さいごに

国有林遠野開庁130周年記念講演会「遠野における森林の変遷」を遠野文化研究センターと共同で12月18日（火）に開催する予定です。遠野物語に描かれた世界から現代に至る遠野の森林の歴史を講師の解説により振り返ります。

今後も地域の参加と協力を得ながら森林の公益的機能の維持増進に励んで行きたいと思っております。



猟友会への小型囲い籠の貸与

後を絶たないため、毎年4月には、関係機関とともに田瀬湖一斉清掃を開催し、また、7月には不法投棄物クリーンキャンペーンを主催して、森林内の清掃活動や啓発看板の設置活動等を実施しています。

また、地域ぐるみの有害鳥獣対策として、本年10月には遠野市及び遠野猟友会との三者で「二ホンジカ等被害対策協定」を締結し、囲い籠の貸与等を行っています。

# 東北育種場の平成30年度の取組

森林総合研究所 林木育種センター 東北育種場長 田中 直哉

## 1 はじめに

東北育種場は昭和33年に設置されて以来、成長、材質、各種抵抗性等において優れたスギやカラマツ等の品種を開発し、その原種の増殖・配布等を行ってきました。また、生物多様性の確保と新品種開発に必要な林木遺伝資源の収集・保存にも取り組んできました。

一方、造林事業の現場では、「良い苗が欲しい」、「もっとカラマツを植えたい」、「コンテナ苗を作りたい」と言った声をよく耳にします。また、松くい虫被害が拡大する中、東日本大震災で失われた海岸防災林のマツ林の再生には、マツノザイセンチュウ抵抗性品種の開発・普及が急務です。山づくりの基礎は、地域の実情に即した良い苗の供給にあると強く感じています。

さらに、国においては未来投資会議で10年後、林業の付加価値生産額を5,000億円とする目標が掲げられました。このため、成長の早い、優れた形質を持った林木の品種改良や増殖の重要性がこれまで以上に高まっています。従来の試験研究の成果がより早く求められてきます。

このような森林・林業を巡る情勢を念頭に置きながら、現場の様々な課題を踏まえた林木育種の取組を東北森林管理局や各県等とも連携しながら進めていく所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

現在、重点的に取り組んでいることは以下のとおりです。

## 2 スギ・カラマツのエリートツリー・特定母樹の開発推進

特定母樹とは、「森林の間伐等の実施の促進に関する特別措置法」に基づき、農林水産大臣の指定を受けた、特に成長に係る特性が優れ、優良な種苗を生産するための種類の採取に適した造林用樹木のことであります。

選抜した第2世代の候補木から、スギとカラマツのエリートツリーの開発及び特定母樹の確定を進めます。スギの特定母樹については、エリートツリー及び雪害抵抗性品種の中から選抜し、農林水産大臣の指定を受けます。平成30年9月末現在、スギ58系統、カラマツ9系統を開発しました。

また、特定母樹等に適したコンテナ苗育成方法を確立するため、各家系の育苗特性の把握に取り組めます。

## 3 マツノザイセンチュウ抵抗性品種の開発と普及

候補木にマツノザイセンチュウを接種し、生き残った苗木から、マツノザイセンチュウ抵抗性品種を選抜・開発します。これまで、アカマツ62品種、クロマツ47品種を開発しました。開発品種は、松くい虫被害を受けた東北地方のマツ林や、東日本大震災で被災した海岸防災林等を再生するため、普及を図ります。

また、抵抗性クロマツ苗木の大量生産を図るため、植物ホルモン処理や簡易な人工交配による充実種子の大量生産技術、さし木やバイオテクノロジー技術を活用したクローン苗木生産技術等を開発しており、これらの研究開発した成果の普及を図っていきます。

さらに、「東北育種基本区アカマツ品種選択ツール」を

開発し、東北育種場のホームページに公表 (<https://www.ffpri.affrc.go.jp/touiku/research/index.html>) しています。これを広く活用していただき、抵抗性アカマツ等の利用促進を図ります。

## 4 カラマツ種子・苗木の安定的な供給技術の開発

カラマツの合板や集成材への需要が高まっており、造林面積が増加しています。しかし、カラマツは種子の豊凶が激しく、種子・苗木の安定的な生産を図ることが課題となっています。

このため、スコアリング等による着花促進技術、植物の成長を促進する物質を活用した苗木の成長促進技術や穂木の増産技術の開発を進めます。

## 5 林木遺伝資源の収集・保存

林木遺伝資源の収集は、品種開発と並んで林木育種事業の重要な柱です。新需要が期待できる有用樹種について、優良系統の選抜が可能となる母集団の作成に取り組んでいきます。このため、東北育種場ではウダイカンバ、イタヤカエデ等について、重点的に林木遺伝資源の収集・保存を行います。

また、松くい虫被害の拡大により、消失の危機に瀕しているマツ類の林木遺伝資源の保存にも取り組みます。

## 6 林木遺伝子銀行110番の推進

林木遺伝資源の収集・保存の一環として行っている「林木遺伝子銀行110番」は、平成15年から始まり、天然記念物や名木、御神木等の貴重な樹木を後世に残すため、所有者の要請に応じて、「さし木」や「つぎ木」で増殖し、親と全く同じ遺伝子を持った後継樹(クローン)をお返しする事業です。これまで依頼は49件あり、そのうち34件が里帰りしました(平成30年7月現在)。

今後も地域の要請に応じて、積極的に取り組んでいきますので、皆様からの御要望、情報提供をお待ちしています。

最後に、東日本大震災で被災した陸前高田市の「奇跡の一本松」の後継樹の現況をお知らせします。故やなせたかし先生が命名した「ノビル」、「タエル」、「イノチ」、「ツナグ」のツギキ(接ぎ木)4兄弟は順調に生育し、樹高は約2mになるまで成長しました。もうしばらくは、東北育種場で故郷へ里帰りできる日まで、大切に育てていきます。



東北育種場から望む岩手山



白神山地世界自然遺産登録25周年  
記念事業

「ミス日本みどりの女神」竹川智世  
さんが一日森林管理局長として活躍

藤里森林生態系保全センター

「ミス日本みどりの女神」の竹川智世さんが、一日森林管理局長として白神山地世界自然遺産登録25周年記念事業に参加するため、藤里森林生態系保全センターに来所されました。この事業は、秋田県が中心となって関係市町村や関係機関が森林環境教育を進め世界遺産の価値を再発見し観光振興による地域活性化を図ることを目的に開催する事業で、東北森林管理局も協力しています。

みどりの女神は10月12日（金）に、明日のイベントに備え白神山地世界遺産地域と同じ体験が出来る人気の高いスポット、岳岱自然観察教育林で秋色づき始めたブナ林をトレッキングし、ブナの種を味わう体験や、台風などにより老木が倒れることで森林の世代交代が進む様子など白神山地の変化に富んだ豊かな自然を体験しました



②ブナの記念植樹



① 400年ブナの前で



③一日森林管理局長任命式

【写真：①】。その後、米代フォレストライン沿いにある町有林でのブナの記念植樹を行い【写真：②】、白神山地の豊かな恵みを楽しむ企業である白神の水を販売する「藤里開発公社 白神山水工場」や高級化粧品を製造・販売する「株式会社アルピオン」を見学し、白神山地の魅力や広大な自然からの恩恵を学びました。

10月13日（土）は、当センターで小島局長より一日森林管理局長の任命を受け【写真：③】、藤里町が主催する樺岱新トレイルで白神山地世界遺産センター藤里館の自然アドバイザーである菅沼氏と共に、一般参加者20名を藤里駒ヶ岳に新しく出来た登山道を案内しました【写真：④】。



④樺岱新トレイル

午後からは、藤里町総合開発センターにおいて開催された、「4つの世界遺産ネットワークシンポジウム」に参加し、「世界自然遺産のまちからのレポート 幸せのまちづくりのお話し」と題し、若い女性の目線で白神山地の魅力や新たな情報発信の仕方などについて提案し白神の未来の可能性などについて語りました【写真：⑤】。

また、世界自然遺産地域の所在市町村長等が参加し、各世界自然遺産地域の魅力や課題等を話し合い、みどりの女神が司会を務め花を添えました【写真：⑥】。

これらの取り組みを通じて、白神山地世界自然遺産の価値と魅力を再認識



④司会を務める



⑤白神山地の魅力を語る

し、これからの白神山地を地域と共に考える機会になればと考えています。

### 盛岡労働基準監督署との連携による立木販売の安全指導を実施

#### 岩手北部森林管理署

9月25日（金）に、八幡平市矢神獄国有林53林班において、盛岡労働基準監督署との連携による立木販売の安全指導を実施しました。

立木販売は、森林管理署と売買契約をした買受人が自らの責任により安全管理を行い、伐倒作業を行うものであり、「国有林野事業林産物売買契約約款」において、「乙（買受人）は、物件の伐採、搬出その他の作業の実行に当たっては、労働安全衛生に関する諸法令及び諸通達に示す指導事項を遵守しなければならない。」となっているところです。

しかし、近年においては、立木販売が増加していることに伴い、労働災害も多発傾向にあります。当署としても、売渡人の立場で現場巡視に努めていますが、請負事業とは異なり、当署が安全を含む作業の詳細について指示等することはできないところです。

こうした状況を踏まえ、盛岡労働基準監督署と連携して、立木販売における伐木造材作業等に係る労働災害防止の取組を推進するため、安全指導を実施したところです。

当該箇所は、岩手県森林整備協同組合が買受し、組合員である（株）泉山林業が実行しているところです。当日は、盛岡労働基準監督署から、藤元安全衛生課長に参加していただき、岩手県森林整備協同組合からは、他の組合



盛岡労働基準監督署による安全指導

員を含め9名、当署からは、署長と次長、また、OJTを兼ねて、若手職員5名の総勢17名が参加しました。

はじめに、実行者である（株）泉山林業から、作業実行体制について説明があり、その後、チェーンソー伐倒からグラップルによる集材、ハーベスタによる造材の一連作業について、藤元安全衛生課長に安全点検を実施していただきました。

安全点検の結果は、①チェーンソー伐倒については、笛による合図や指差し呼称が適切に実施されており、伐根のチェックにおいても、受け口の斜め切りが下切りに対し、角度30〜45°の範囲となっていたとともに、つるもよく機能していたという話がありました。し

かし、チェーンソーを運ぶ際、ガイドバーカバーを付けていなかったとの指摘がありました。また、②ハーベスタによる造材等の木材伐出機械等作業については、立入禁止区域について、安全指導ということもあり、原木を掴んだ状態の旋回範囲内で見ていたという指摘がありました。



伐根のチェック

引き続き、藤元安全衛生課長から、配付資料に基づき、安全指導をいただきました。特に強調されたのは、岩手県で「林業死亡労働災害多発警報」が発令されている中で、①まずは林業は危険な作業であることを再認識してほしい、②災害が無くならないのは、安全教育の効果が十分でないためであり、工夫が必要、③守るべきことは必ず守るという中で、安全に作業を進めるためには段取りが重要ということ

した。また、緊急連絡体制については、いざという時の対応を容易にするためには、怪我等を想定して訓練をしておくことが大事という話もありました。この取組は、当署としては初めてのものであり、短い時間ではありましたが、大変有意義なものとなりました。今後は、盛岡労働基準監督署に加え、当署には二戸市及び二戸町にも国有林があり、同市町を管轄している二戸労働基準監督署とも連携してこの取組を実施していく考えです。

### 採材検討会・低コスト造林現地検討会

由利森林管理署

由利森林管理署管内において、8月2日に採材検討会、8月7日に低コスト造林現地検討会をそれぞれ開催しました。

採材検討会は、平成30年度の素材生産事業請負受注者を対象として、高齢級間伐箇所における一般材比率の向上や有利採材のための技術向上を目的として実施し、開会にあたり仙北谷彰署長から「木材の安定供給や木材需要の拡大に向けた取組、高齢級間伐箇所における採材技術向上の重要性」等について挨拶を行い、採材の検討に移りました。

当日は、川中、川下側からも参加いただき全幹材を用いた採材の検討を行ったところ、「この程度の曲がりなら一般材の4mを採材して大丈夫

か？」とか、「この場所にあるこのくらい目のまわりなら、うちでは一般材でも引き受け可能だ」「ここで切ったらもつと単価が上がるだろう」といった質問や意見等が出され、それぞれの立場で活発に意見交換を行いました。最後に局資源活用課長より、「このような検討会の場を活用し、森林管理署職員を始め請負事業者、買受け者ができるだけ同じ感覚で材を評価できるように目合わせをすることが大事」と講評をいただき採材検討会を終了しました。



採材検討の様子

子吉川流域林業活性化センターの共催を受けて開催した低コスト造林現地検討会では、前半の室内研修で局森林

整備課から「低コスト造林に向けた取組」について、また、技術普及課からは「低密度植栽について」と題し講話をいただきました。その後、平成27年度に低密度植栽試験地に設定し、平成28年度及び平成30年度に下刈省略を実施した現場へ移動して、総括森林整備官より現地の事業概要説明を行ってから意見交換に移りました。

平成29年度に行った下刈作業の受注者からは「前年度に下刈を省略していたため灌木や雑草が生い茂っていたことに加え、低密度植栽箇所であったことから植栽木の発見にやや苦労した」と作業時の体験談があったほか、参加者からは「低密度植栽や下刈省略などを行っている試験地は貴重な存在。10



低コスト造林実施箇所意見交換

年後、15年後にどのようなようになっているか見てみたい」といった感想が出されました。

また、検討会の中で署長から「主伐後の再造林を進めるにあたり、植栽と保育に掛かるコスト削減は喫緊の課題である。林業の成長産業化の実現に向けて、低コスト造林への取組を積極的に進めて参りたい」といった話のほか、最後には「今後もこのような検討会など様々な場で情報共有や意見交換を行いながら低コスト造林に取り組み、地域の林業、木材産業に貢献して参りたい」とまとめがあり、低コスト造林現地検討会を締めくくりました。

## INFORMATION

### 新任者 略歴紹介

11月1日付け

湯沢支署長

さとう てるひろ  
佐藤 輝寛  
(秋田県)



昭和58.4 秋田局監査課  
平成21.8 東北局職員厚生課課長補佐  
平成24.4 岩手南部署次長  
平成27.4 東北局企画調整課監査官



# mini column

## ノスリ

～山から里へ、季節移動する猛禽類～



藤里森林生態系保全センター 専門官 有本 実

山の木々はすっかり葉を落とし、いよいよ冬将軍が到来しそうな11月。日に日に寒さが増すにつれて、収穫後の田畑の脇に立つ電柱に、丸っこい大きな鳥が止まっている姿が良く見られるようになります①。山地帯で暮らしていたノスリ達が、越冬のために農耕地帯に下りてくるのです②。

①のノスリは何だかうつむき加減ですが、これは世知辛い猛禽の世界に嫌気が差して落ち込んでいる、ではありません。ノスリの主食はネズミやモグラ類で、電柱のてっぺんから眼光鋭く獲物を探しているのです。見つけ次第急降下して獲物を鷲づかみにする③……一説によると獲物を狙って地面すれすれを飛ぶので“野擦り”、というのが名前の由来のようです。

ノスリは農耕地や草地で狩りをする事が多いため、トビに次いで人目に付きやすい猛禽類です。小

動物しか捕食しないため鷹狩には使えず、『馬糞鷹』など不名誉な別名もありますが、ネズミを退治してくれるため農家にとってはありがたい存在です。夏場は意外と高標高地でも見られ、私は早池峰山の山頂上空で旋回する2羽のペアを目撃したことがあります。こんな山奥で飛ばれるとイヌワシやクマタカと勘違いされる方もいて、同定には注意が必要です。

ノスリの背面は茶褐色ですが腹面は白っぽく、腹に帯状のシミのような模様が目立ちます④⑤。カラスと同じくらいの大きさで、“ポッチャリ体型+扇型の尾羽”が特徴です。良くいるトビは、カラスより一回り大きくて尾羽が三角形なので識別は容易です⑥。この冬は希少猛禽類の識別への第一歩として、まずはノスリを覚えてみてはいかがでしょうか。



①電柱に止まる



②トラクターからカメラ視線



③農地で狩り



④飛翔型（背面）



⑤飛翔型（腹面）



⑥トビ・カラスとの比較



# 森林官からの手紙

## 吉田森林事務所の管内の紹介について

秋田森林管理署 吉田森林事務所 首席森林官

大川 輝美

今年の4月から赴任した吉田森林事務所は秋田県のほぼ中心部の田沢湖の西側の区域を管轄しており、その面積は約11,600haにもおよびます。管轄区域の中央部を国道105号線、秋田内陸線、松木内川が流れ北秋田市に接する北側の郡界にかけ周囲を山間に囲まれた楕円状に管轄する区域となっています。特徴的なことは、このような地域や地形から豪雪地帯となっており、その雪解け水が流れる松木内川の水も大変きれいなものとなっています。



松木内川

仙北市西木町地区には、全国的にも有名な上松木内の紙風船上げがあります。例年2月の下旬に行われている行事で、業務和紙を貼り合わせ、長さ3メートルから8メートル（大きいものでは12メートル）の円筒形を作り、下部の口には、直径1メートルから3メートルほどの竹製の輪を取り付けます。この輪に紙風船

の揚力源となるタンポ（石油を染み込ませた布玉）を固定して、それに火をつけて気球の原理で空に飛ばすものです。5月に国道を走行していたら、紙風船が1個だけ飛んでいたの不思議に思い見てみると、どうやら取材のため上げているようでした。私も是非見てみたいと思っている行事の一つであり、紙風船上げには壮大な夜景を期待しています。

管内で行われる行事のもう一つは例年9月に行われる100キロマラソンがあります。100キロマラソンは仙北市角館から北秋田市鷹巣までの区間を走るマラソン大会で文字通り100キロを走らなければならぬ過酷なレースです。もともと難関と思われるところに郡界の大覚野峠があります。高低差300mを駆け上がることとなり、周囲は緑の回廊にも指定されていて林道を入ると天然林が成林する山林地帯でもあります。選手達は、一般のマラソンの倍以上の距離を走る上に想像以上の高低差を駆け抜けてゴールしていることは本当にすごいことだと思います。こんな過酷なレースなので、今年の完走率は100キロの部で50%くらいだそうです。マラソン経験のない私なら、途中で内陸線に乗って、田んぼアート、周囲の風景、秘境を満喫しながら帰ることにしようです。

今年は、丁度計画画樹立に向けた予備編成の年となっています。現地を確認する前に衛星画像でリストの箇所の確認をしていたところ、八幡平太平洋山緑の回廊内



垂天池沼

の1060林班に結構大きな池が確認できました。図面で調べてみると垂天池（たちち）という池らしく山崩れのためにできた堰止湖のようです。立様（たつさま 991.8m）の北東に位置しています。回廊の区域内ですが、造林地も周囲に比較的多く見ることができます。現地確認のため、PDAを持参して伐採の可否や間伐の必要性などを確認しながら歩いて行くと突如スギ林からブナ林へと林相が変わり垂天池が現れました。水質は対岸の緑が水面に映り込むほどきれいなもので、歩道も周回できるよう整備されており、季節がらブナ殻やトチの実を踏みしめて30分程度で廻ることができます。調べてみると垂天池には崇りの伝説があるようなので、一人では行かない方が良さそうです。現場業務も最後の追い込みとなっており、今後も新たな発見をしながら、楽しく業務に取り組んでいけたらと思っています。



柱状節理



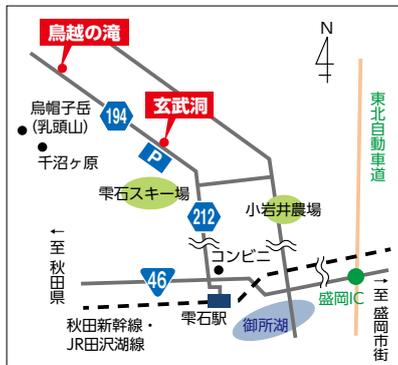
葛根田川と紅葉



紅葉と玄武洞



鳥越の滝



◎交通アクセス

盛岡ICから車で29分、栗石駅から車で24分  
玄武洞・鳥越の滝付近(県道194号線沿い)には、千沼ヶ原(せんしょうがはら)・鳥帽子岳(秋田側から見た乳頭山)への登山口や、滝の上温泉があります。

盛岡森林管理署

〒020-0061  
岩手県盛岡市北山二丁目2-40  
TEL 019-663-8001  
FAX 019-663-8172

流域に約8,000haものブナ原生林が広がる葛根田渓谷は、春にはみずみずしく輝く新緑、秋になると鮮やかな紅葉に彩られます(その多くが国有林です!)。晴れた日には葛根田川の澄み渡ったエメラルドグリーンが引き立ち、青空と新緑・紅葉のコントラストを更に魅力的なものにします。ぜひ、玄武洞・鳥越の滝と美しい木々の神秘的な光景を見にいらしてください。

水量の増加で、更なる迫力が期待できます。  
葛根田川沿いの道をさらに上流方向へ行くと、鳥越の滝があります。付近にある滝の上温泉の蒸気、滝壺の深いブルーと落差30mにもなる滝から響き渡る轟音が圧巻の演出を見せています。また春先には雪解け水による水量の増加で、更なる迫力が期待できます。

秋田駒ヶ岳山塊と岩手山・八幡平連山から湧き出る清流が造り出した、岩手県栗石町の葛根田(かっこんだ)渓谷。約10kmに渡る渓谷の左岸に、高さ約70m、幅約160mの堂々たる柱状節理が目を引く玄武洞があります。玄武洞は網張の火山噴火によって流れた溶岩が冷えて固まる際に形成されたといわれます。平成10年に発生した地震により崩落してしまい、今ではその完全な姿を見ることはできないものの、柱状節理の特徴ははっきりと残っており、自然が造り出した造形美を楽しむことができます。

盛岡森林管理署管内  
岩手県栗石町  
玄武洞(玄武の大岩屋)及び鳥越の滝

# 我が署の名所

